

益城町テクノ仮設団地で活動しています



自治会との大型整備事業 「みんなの広場」を整備！

テクノ仮設団地はとても広いですが、駐車場が多く、建設当初から子供の遊び場が少ないことが問題となっていました。2017年1月の自治会で、団地に隣接する土地を県から自治会が借り受け、子どもやお年寄りの「屋外の居場所」として広場を整備することになりました。広場は4月に完成し「さくらまつり」を実施し、広場の名前は、公募の結果「ダム湖の見えるみんなの広場」に決定しました。



「子ども向け」？いいえ！ 「4畳半向け」です！

応急仮設住宅の部屋は4畳半です。現在の我々の暮らしで、あまり馴染みのある部屋の広さとは言えません。普通の家具を入れると人のいる場所がなくなってしまいます。そこで、テクノ仮設団地に暮らすお年寄りに協力してもらい、4畳半に置ける「少しこの椅子」をデザイン・製作しました。材料は多良木町から無償提供を受けた杉材です。2017年3月、5月にこのミニ椅子の譲渡会を実施しました。



子供の居場所提案 「みんなの砂場」を整備！

2017年5月25日に、テクノ仮設団地本格型みんなの家の東側に「みんなの砂場」を整備しました。4月より様々な子供の居場所を提案、設置のお手伝いをしていますが、この砂場は、未就学児向けです。多良木町より無償提供を受けた杉材を活用し、ベンチとしても活用できるたまご型のデザインとし、小さな子供が親や地域の方に見守られながら楽しく遊べる仕様としました。

KASEI

九州建築学生仮設住宅環境改善プロジェクト Kyushu Architecture Student Supporters for Environmental Improvement project

KASEIプロジェクトは、熊本地震の被災地に建設された仮設住宅地の環境改善活動を行い、居住者に安らぎのある住環境と、それら一連の活動を通じて豊かなコミュニティを築くことに「加勢（かせい）すること」を目標としています。

仮設団地が役目を終えるまで 「てくてくの」毎月発行！

2017年3月より、テクノ仮設団地自治会、キャンナス熊本と共同で、テクノ仮設団地情報誌「てくてくの」を毎月発行しています。記事の内容は、自治会での話し合いの内容や、イベントの周知など様々です。創刊号では、震災から一年を迎えるにあたり、団地全体で灯す灯籠のデザインと作り方を学生が提案しました。テクノ仮設団地が役目を終えるそのまで、毎月発行を目指します。



みんなの家 花壇

本格型みんなの家には、カールツアイス社より桜の木、芝桜が贈されました。芝桜を植える花壇はKASEI参加学生がデザインし、熊本県産材の杉板を加工し、どんな長さにも対応できる花壇としました。基本となるバーツはたったの5つ、組み合わせは自由で、どんな場所にも対応できます。



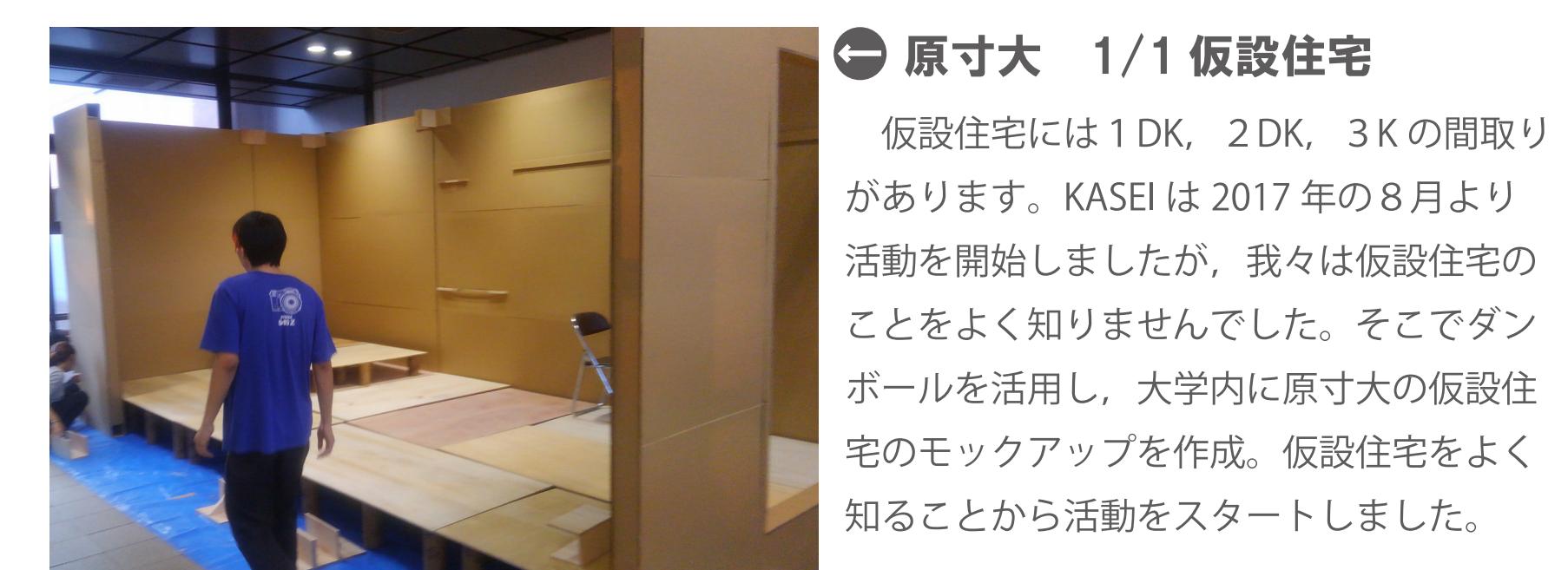
みんなの家 みんなのポスト

設計者と地域支え合いセンターを運営するキャンナス熊本の依頼で、みんなの家の鍵を返却するポストを作成しました。テクノ仮設団地にはみんなの家が11棟あり、管理者が帰宅した後でも鍵が返却できるようになりました。



みんなの家 家具

本格型みんなの家の家具は、デザインから製作までKASEI学生が担当しました。設計者、住民、地域支え合いセンター職員と打ち合わせを行い、要望に応えた世界に1つしかない家具を手作りしました。材料は多良木町より無償提供を受けた杉材を使用しました。



原寸大 1/1 仮設住宅

仮設住宅には1DK、2DK、3Kの間取りがあります。KASEIは2017年の8月より活動を開始しましたが、我々は仮設住宅のことをよく知りませんでした。そこでダンボールを活用し、大学内に原寸大の仮設住宅のモックアップを作成。仮設住宅をよく知ることから活動をスタートしました。

